

第4回 歴史・文化、自然再生WGの開催結果			
日時	平成24年11月27日(火) 13:30~16:30		
場所	亀岡市役所 2階 202・203会議室		
出席者	<p>京都大学大学院 教授 岩田 明久 グループ長 亀岡文化資料館 館長 黒川 孝宏 副グループ長 NPO法人亀岡人と自然のネットワーク 仲田 丞治</p> <p>(欠席6名)</p> <p>亀岡市環境政策課 中西係長 // 社会教育課 齋藤主事 // 土木管理課 橋本課長 桂川・道路整備課 並河課長、柴田参事、関口係長、竹村主査</p> <p>京都府南丹広域振興局 企画総務部 企画振興室 箕浦副室長 京都府南丹土木事務所 河川砂防室 星野室長、井尻副室長、中主査、青木副主査 (順不同、敬称略)</p>		
内容 (次第)	<p>1) 開会 2) 議事 ○現地調査(桂川の内膳堤、水際等について) ○水端かわまちづくりWG、ふれあいかわまちづくりWGの検討状況 ○亀の甲について ○左岸最下流部の湿地創出に向けて ○その他 3) 閉会</p>		
結果	<p>○亀の甲について、モニュメント等を設置する方向で検討を進めるため、今回の資料を手掛かりにして、さらに文献調査をすることとなった。</p> <p>○左岸最下流部の湿地について、まずは引き込んだ山水を皿状の池で常時湛水させておくような地形を整備することを検討する。また、検討内容は水端WGのじゃこ田とも情報共有していく。</p> <p>(主な意見)</p> <p>【亀の甲について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和の始め頃までは亀の甲が残っており、市民の思い出の場所にもなっているので、復元が難しい場合でもせめてモニュメント的なものを作ってはどうか。 ・モニュメントを作るにしても、亀の甲がいつ頃なくなったのかは重要な情報なので調べる必要がある。 ・現況との重ね図で左岸側の位置の誤差が大きいので、基準点を再検討してはどうか。 ・京都府総合資料館に協力してもらい、今回の資料を手掛かりに、上内膳と下内膳も合わせてさらに詳しく調査してはどうか。 <p>【左岸最下流部の湿地創出について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは低水時よりも高い位置に皿状の池をつくり、その池へ山水を引き込み、常時湛水している環境を整備してはどうか。 ・アユモドキは急激に相当水位が上昇しないと産卵せず、東南アジアにいるアユモドキの間間は洪水時に産卵しているので、保津川のように洪水で急に水位上昇する環境は良い。 ・アユモドキには田んぼから流出する泥水に引き寄せられると言われているので、一時的にでも泥水が流れ出すような実験をしてはどうか。 ・アユモドキの産卵期に日吉ダムの放水調節で水位上昇を起こすことも可能かもしれない。 ・水端WGのじゃこ田もアユモドキの産卵場所になり得る特徴を備えているので、今回の岡山県の資料など情報共有を図りながら進めていけたらよい。 		

【水際整備について】

- ・ 水際護岸の緩勾配の部分は水溜りができる高低差のある凸凹の地形としてはどうか。
- ・ 増水した時に川につながるような堤防側に幅 2m、深さ 30cm の溝を掘ってはどうか。

